

令和4年度（2022年度）行政評価シート【個表】 令和4年7月26日

評価対象事業		評価者	生活福祉課	寺山 明
健福-12	ひきこもり対策推進事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務	主管課	生活福祉課
重点事業		<input type="checkbox"/> 法定受託事務	関連課	青少年課、地域共生課、教育センター、商工課
総合計画上の位置付け	分野	健康福祉	施策の方針	多様性のある福祉サービスの充実

1 事業の目的

対象	ひきこもりの状態にある方やその家族
意図	社会参加や自立の促進を図るため。
効果	ひきこもりの状態にある方やその家族の不安が解消され、社会参加や自立が促進される。

2 令和3年度(2021年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> ひきこもり支援員を配置し、ひきこもりの状態にある方やその家族に対し相談支援を行った。 ひきこもり支援ガイドを発行した。 ひきこもりに関する講演会等を開催した。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和3年度		令和4年度	達成度
				指標(実績値/目標値)	事業費(決算/当初)(千円)	指標(目標値) 予算額(千円)	
01	ひきこもり家庭等相談支援事業	—	相談支援件数(人)	44 / 20	60 / 60	50 / 0	
02	ひきこもり周知啓発等事業	講演会講師謝礼等	講演会への市民等の参加人数(人)	38 / 50	30 / 200	50 / 620	
03	出張旅費	支援員旅費	-	- / -	25 / 0	- / 46	
04				/	/	/	
05				/	/	/	
06				/	/	/	
07				/	/	/	
08				/	/	/	
09				/	/	/	
10				/	/	/	
		財源内訳	国県支出金	57 / 130		333	
			地方債	/			
			その他特定財源	/			
			一般財源	58 / 130		333	
			事業費の合計(千円)		115 / 260		666
		人件費(千円)			4,335	7,449	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	0.1	0.4	0.8			
会計年度任用職員	0.0	1.0	1.0			

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、 目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、 構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	ひきこもり家庭等相談 支援事業	ひきこもり支援員を配置したことにより、当事者及び家族からの相談を受け、支援につなげることができたことで、事業の目的である自立の促進に寄与したと考えている。	ひきこもり家庭を支援することで社会や地域とのつながりができ「市民が安心して自分らしく暮らすまち」に寄与した。	教育委員会及び青少年課等と連携し、年代に応じた支援を行うとともに、アウトリーチを含めた相談支援体制の構築のため、事業の整理や具体的な支援方法の検討が必要である。
02	ひきこもり周知啓発等 事業	動画配信での講演会となった令和2年度に比べ、対面で実施したことにより参加人数が増加し、おおむね募集人数通りの参加者があったことは、ひきこもりに関する住民理解の促進につながったと考えている。	ひきこもり家庭を支援することで社会や地域とのつながりができ「市民が安心して自分らしく暮らすまち」に寄与した。	ひきこもり支援マップや市ホームページ、SNSなどの活用により、事業の周知を図る必要がある。
03	出張旅費	相談員の出張に係る経費のため、指標の設定はなじまない。	—	—
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか	2 統合に向けて検討できる事業がある
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	3 民間によるサービスで代替できる事業はない
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-2 受益者はいが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施
		△-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある 協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】 拡充 改善・変更 現状維持 縮小 休止・廃止

令和3年度より「ひきこもり支援員」を配置し、相談支援を行うとともに、ひきこもりに関する講演会の開催により、ひきこもりについて周知・啓発を行うことで住民への理解促進を図った。今後は、ひきこもり支援員・指導員を中心とした庁内関係課や支援機関との連携により支援体制を強化していくとともに、地域関係者からの情報収集により実態把握を行い、より実効性のある支援を実施していく。また、地域で孤立している世帯に対し、アウトリーチ等により適切な支援につないでいくことで、ひきこもりの状態にある方やその家族の不安が解消され、社会参加や自立が促進されるよう事業を継続していく。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	ひきこもり相談件数						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
ひきこもり問題を抱える当事者及び家族が相談支援につなげることが本事業の目的であるため	目標値		20.0	50.0				
	実績値	13	44.0					
	達成率		220.0%					

指標(単位)							単位	
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	ひきこもり相談件数等(令和3年度実績)						
団体名	鎌倉市	大和市	座間市				
他市実績	相談者/相談件数	相談者/相談件数	アウトリーチ相談件数/訪問・同行件数				
	44人/452件	65人/559件	209件/62件				

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	令和2年度から本事業を開始したところであり、先行している他市を参考にして今後の支援体制を構築していきたい。
----------------------	---